

チャレンジコミュニティ Challenge Community Club

通信

CHALLENGE COMMUNITY CLUB
Ccc
第39号

2018.12 vol.39



カレッタ汐留



2018年度CCクラブ総会



明治学院高等学校授業参加



第3回地域福祉フォーラム



みなと区民まつり

CONTENTS ■ごあいさつ

港区保健福祉支援部長

森 信二

■2018年度CCクラブ第3回定期総会・
ホームカミングデー・交流会

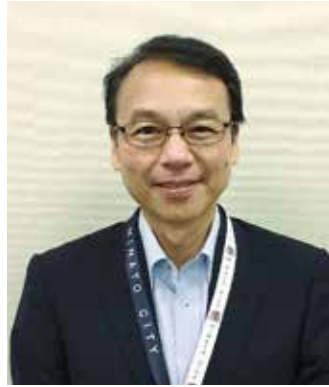
■2018年度CCクラブ活動

■運営委員会報告・活動計画

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんに期待すること

港区 保健福祉支援部長 **森 信二**

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さんには、日頃から区民参画による検討会や各総合支所の区民協働活動に積極的にご参加いただいております。心から感謝申し上げます。



皆さんのこれまで培ってきた知識や経験にさらにチャレンジコミュニティ大学の講義で学んだ内容を付加することで、地域の課題解決に向けた皆さんお一人おひとりの活動が、地域コミュニティの活性化、地域共生社会の実現に大きく貢献するものと思います。

さて、港区は中学生までの医療費無料化、第2子の保育料無料化などの子育て世代への政策が功を奏したこと、さらに旺盛な開発需要による高層住宅の供給とあいまって、人口は全年代で増加し本年6月には25万6千人を超え、平成39（2027）年には30万人を超えると推計しています。特に、港区で生まれる子どもたちは年間約3千人で、若い子育て世帯が多く居住していることがわかります。このように、全国的には人口減少が進む中、港区の人口は着実に増加しています。

しかしながら、核家族化や個人情報保護に関する意識の高まりなどの社会状況により、コミュニティ意識の希薄化が顕著となり、町会・自治会、PTAなどの地域自主活動の担い手不足はいまだ改善されていない状況です。この傾向は、港区だけでなく全国的にも同様であり、国はこのような状況を打開するために「地域共生社会の実現」という新しいコンセプトを打ち出しました。

地域共生社会とは、制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が我が事として参画し人と人、人と資源が世代や分野を超えて丸ごとつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会と、国は示しています。

港区では、平成18（2006）年4月に実施した「区役所・支所改革」により、総合支所が地域の課題を地域で解決するため、子ども、高齢者、障害者、外国人など多様な区民に対してワンストップサービスを展開し、参画と協働により地域の課題を解決する仕組みも定着しています。

このような取組みをさらに発展させ、港区ならではの地域共生社会を実現するためには、行政の力だけでなく、区民や地域の多様な主体の参画を得ながら、地域が一丸となって地域をともに支え合っていく必要があります。

地域を支える力の一つとして、ボランティア活動が大きな役割を占めることとなります。ボランティア活動というと、昨今では福祉分野や災害被災者支援が定着していますが、町会・自治会活動、PTA活動、地域清掃活動、地域防災組織、民生・児童委員など、地域には欠くことのできないボランティア活動がたくさんあります。港区では、麻布地区総合支所内にある港区社会福祉協議会がボランティアセンターとしてボランティア情報の発信や支援を行っています。そこでは、福祉施設、病院などのほかNPOや支援サークルなどもボランティア活動の担い手を募集しています。このような団体や施設の活動に参加するだけでなく、身近な地域でできる活動も考えられます。たとえば、子どもたちの通学時間帯に家の前で見守る、高齢者が困っているようだったら声をかけるといった小さな親切やちょっとしたおせっかいもボランティア活動といえるのではないのでしょうか。こうした、一人ひとりの小さな親切や思いやりが地域共生社会を実現するうえでの礎になると思います。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには改めて身の周りにある小さなボランティア活動から勇気をもって一歩前に進んでいただき、そこからさらに同じ意識を持つ皆さんが集まり、一回り大きな活動へと広がっていくことを期待しています。

区は、皆さんの一つひとつの活動が結びつき連携し、地域の誰もが安全安心に暮らすことができる港区ならではの地域共生社会の実現に向けて、地域の皆さんとこれまで培ってきた絆を大切にしっかりと支援してまいります。

今後とも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2018年度 CCクラブ第3回定期総会・ホームカミングデイ・交流会

6月16日（土）、13時30分より明治学院大学白金校舎2号館2301教室にてCCクラブ第3回定期総会、ホームカミングデイそして夕方にはパレットゾーン1階食堂にて交流会を開催しました。また、総会会場受付周辺では「CCクラブ会員のグループ活動紹介」の展示がありました。

CCクラブ第3回定期総会

定期総会は13時35分に106名が参加し、丸山保夫副代表（7期）の司会で始まりました。

最初にCCクラブ斎藤正精代表（6期）が挨拶を行いました。

「CCクラブは11期を迎え総勢約600名の団体になりました。本日は昨年の活動の結果と今年度の計画について確認し合う会にしたいです。」

次に来賓の高輪地区総合支所、明治学院大学の皆さまを紹介し、永野茂洋明治学院大学副学長から挨拶をいただきました。

「副学長となり、CC大学、CCクラブとの関わりも3年になります。」

CC大学の修了生がCCクラブに所属するこのシステムは大変良く出来ていると言われます。しかしそれを支えるのはやはり人です。テクノロジーの進歩と並んで人がバージョンアップしないと、良い地域社会は出来て行きません。行政には行政の大きな役割がありますが、それと並行して、市民同士支え合い、その関係の中でそれぞれが力を発揮し活動するとき、地域の力もまたアップしていきます。その核になるのがCCクラブです。大学として今後も出来る限りバックアップをして行く所存です。」

議事の進行にあたり、司会は議長に斎藤正精代表を選出することの承認を求め、議事を進めました。

第1号議案 2017年度活動報告

丸山副代表がスクリーン画面を使って一年間の活動内容、CCクラブの運営の仕組み、CCクラブ内部の会計報告、そして地域CCクラブの活動

を説明し、その後拍手をもって承認されました。

第2号議案 2018年度活動計画（案）

斎藤代表がCCクラブの現状と計画内容を説明しました。

「活動方針作成にあたり、実態活動調査の結果を重要視しており、今年度も活動実態調査を行うので協力をお願いいたします。」

運営方針は『クラブの活動をさらに活発化させCCクラブの継続・発展性を高めていく①独自の企画・活動、一般向けの企画を行う、②会員の人材（スキル）を生かしクラブの総合力を高める』です。また、今年度の活動方針は『①CCクラブの独自の活動、②サロン活動研修の充実、③高齢化社会にあたり、働く世代に対する支援も含め子どもに対する支援活動を含めた地域活動を行っていく』です。」



総会会場での議案審議

議長は続いて年間スケジュールなどを議案資料とスライドを使い詳細に説明し、審議に移り、3名の方より質問があり回答しました。その後、議長が議案の承認を求め拍手によって承認されました。

第3号議案 規約改定の件

議長は石川啓子総務部会長（8期）に説明を求め、検討経緯、内容について説明があり、拍手を

もって承認されました。

第4号議案 役員選任の件

議長は代表、副代表、5部会長の候補者を提示し、賛成多数で承認されました。各役員が壇上に上がり斎藤代表から紹介されました。

議事は14時45分に終了しました。



壇上に上がり紹介される2018年度新役員

2018年度ホームカミングデイ

15時10分に野村知義企画部会長（8期）の司会で渡邊一雄先生の紹介から始まりました。

渡邊一雄先生は一橋大学法学部を卒業後、1983年にアメリカ・ノースカロライナ州ダーラムで三菱セミコンダクターアメリカの社長に赴任し、その後現地でフィランソロピーに出会いました。そして帰国後に様々なボランティア活動を始めました。現在も広く精力的に活躍しており、その一端を今回の講演会で紹介されました。

（講演内容についてはCC通信掲載にあたり講演者が新たに執筆したものを掲載しました）

やっと見つけた！手ごたえのある生き方
～ボランティアとフィランソロピー～
日本フィランソロピー研究所
所長 渡邊 一雄

私は1990年に「体験的フィランソロピー」という本を上梓し、日本にフィランソロピーの必要性を主張した。当時は世界中から日本はエコノ



ユーモア溢れる渡邊一雄氏

ミックアニマルと非難されていた。私は企業人で

あったが大学教授に転進し、東京大学医学部や慶應大学また経団連でも講義をし続けてきたが、なかなかフィランソロピー精神が根づかず理解は出来るが実践に至らないのが実状である。しかし、人生の晩年になって気づいたことは、今までは企業の社会貢献を主張していたが、それも重要ではあるが現代日本の超高齢化社会において生きる手応え、生きる生甲斐を求めている高齢者にこのボランティアフィランソロピーが解決の糸口ではないかと気づき、再びここでフィランソロピー活動を認識し実践することの重要性を強調していきたい。そこで、フィランソロピーとは何かを説明する前に私自身のフィランソロピーとの出会いをお伝えしよう。それはかつてバブルさなかの頃（1980年代）アメリカで起った事件である。当時、企業戦士（エコノミックアニマル）と呼ばれ、寝ても醒めても仕事一本の毎日で社会貢献など思いもよらぬ頃の話である。

当時、私は三菱セミコンダクターアメリカの社長としてアメリカのノースカロライナ州ダーラム市に赴任していた。そこで全米少年野球大会が開かれることになった。思いがけないことに私に始球式をやってほしいとの依頼があった。忙しいので一旦は断ったが社員が「社長は行くべきだ。地域貢献の為にフィランソロピーだ」としきりに言うので意味も分からず嫌々球場に行くと、なんと平日の昼間なのに約二千人の市民が詰めかけていた。監督がやって来て「突然ノースカロライナ州の知事が来て、彼が投げることになったので、あなたはアメリカ国歌を独唱してくれ」と言う。「ノーノー」と叫んだが私をピッチャーズマウンドに残して去ってしまった。今からミスターワタナベがアメリカ国歌を歌います、全員起立！」というアナウンスが流れ国旗がスルスルと上る。もう逃げられない。やるっきゃないと覚悟して歌い出した。情けない声、下手な歌が流れ出した。すると可哀想に思ったのか少年野球の選手達が助けてやれという思いが可愛い声で唱和してくれ、ついに球場に来ている市民達も歌い出し大コーラスになった。歌が終わるや子供達が駆けよりもみくちやにされ次の瞬間、球場から嵐のような拍手が湧き上がった。「オーイ日本人、君を今日から友達にしてやるよ」、「君を市民にしてやるよ」という声が聞こえ思わず「サンキューベリーマッチ、ありがとうございます」と叫び最敬礼をした途端、

涙がとめどもなく出てきた。丁度テニスの大坂なおみ選手がブーイングの中で「優勝してすみません、ありがとう」と涙ながらに語った一言でアメリカ人の心情がガラリと変わったあの光景と同じ雰囲気を感じた。この日から私の人生の生き方が変わった。小さなことでも人が喜んでくれることをすることには感動があり、感動こそ生きている証である、これがフィランソロピーというならこれを私の生甲斐にしようと思ったのである。仕事も大切だが同時にお金に替えられない心の報酬（サイキックインカム）が生きている意味なのだ、ということが心の底から理解出来るようになった。

さて、ここでフィランソロピーの意味について端的に説明してみよう。少し難しいがよく味わっていただきたい。フィランソロピーの日本語訳は「社会貢献」とされているが正しい翻訳ではない。正しい訳がないから一応社会貢献としている。英語ではphilanthropyと綴るが語源はギリシャ語の「フィロス（愛）アンソロポス（人間）」を組み合わせたフィランソピアである。つまり、人を愛することや博愛を意味しているが「博愛主義」や「ヒューマニズム」とは違うのは、これらが心の問題として必ずしも行動を伴わないのに対してフィランソロピーは行動が必要となる。いわば思想と行動のセットであり社会の仕組みを変えるプロセスである。ボランティアとの違いは、フィランソロピーは一つの思想あるいは土台でありその上にボランティアやN・P・O活動がある。フィランソロピーを具現化する手段がボランティアである。フィランソロピーが頭でボランティアが手足であるといってもよい。チャリティーという言葉もあるが、これはイギリスで良く使われる。1601年に生まれた「救貧法」に起因し、お金持ちが貧しい人にモノやカネを恵むという考え方である。フィランソロピーとの違いを端的に言えば「飢えた人に魚を与える」のがチャリティーで「魚の取り方を教える」のがフィランソロピーである。この違いを良く理解していただきたい。即ち困っている人の為に社会の仕組みを民間の力で変えていく。生活の質的向上を図る思想と実践行動のセットがフィランソロピーの基本的考え方である。かつて筆者が創設した「東大病院にここボランティア」がフィランソロピー活動のモデルといって良いと思われる。当初は東大側もボラン

ティアフィランソロピーの導入に否定的であったが、日野原重明先生の強いサポートもあって1995年にスタートすることが出来た。NHKの調査によればこの活動で患者も喜び、参加したボランティアも手応えのある生甲斐を感じ、なんと東大病院側の医師職員のサービスのあり方も向上してきたというデータが全国に発表された。その影響で全国約150の大学病院にボランティア組織が形成されていった。これが社会の仕組みを変えていくフィランソロピーの効果である。アメリカと違うところはアメリカは完全に「民」の力だけの活動であるが、日本は「官」の力との合成の上の日本型フィランソロピーが展開されている。CCクラブは会員（民）をベースとして、港区（官）と明治学院大学（学）、即ち民官学の見事なコラボレーションによって、すばらしい日本型フィランソロピーの活動で心から称賛したい。

CCクラブ交流会

交流会は16時30分より会員約100名と明治学院大学、高輪地区総合支所の関係者そして講演をされた渡邊一雄先生も参加し、可知隆志企画副部長（8期）の司会で始まり



挨拶する鈴木課長

今回は全員椅子に着席する新しい試みで、冒頭、丸山副代表が挨拶をおこない、高輪地区総合支所鈴木雅紀協働推進課長の挨拶、乾杯が行なわれました。新しく仲間になった11期生の紹介と挨拶の後に、皆さんで大正琴を伴奏に歌を披露しました。最後に全員で合唱し、地域や期を超えた賑やかな交流会となりました。



11期生の皆さんの合唱

2018年度CCクラブ活動

2018年度のCCクラブの活動として5月15日、16日に明治学院高等学校家庭科授業にスピーカーとして参加しました。8月18日の「夏の子ども会・サイエンス講座」、10月6日の「みなと区民まつり」、10月20日、21日の「第3回港区地域福祉フォーラム」について紹介します。

明治学院高等学校家庭科授業参加

4月の運営委員会で明治学院大学から明治学院高等学校家庭科の授業で「高齢者福祉をテーマにした授業」を行うにあたりCCクラブ会員に対して授業でのゲストスピーカーの依頼がありました。2018年度テーマの多世代支援活動の一環として参加することになりました。

5月15日（火）、16日（水）、21日（月）の3日間で合計8授業（各45分間）に18名の会員が参加しました。各授業で2～4名が参加し、各人が約8分間で「過去に行ってきたこと、今行っていること」を披露し、その後生徒からの質問に答える形で行いました。

生徒からは「今までの人生のなかで一番大きな経験は何でしたか?」、「今の若者をどのように思いますか、何か注文はありますか?」等々の質問がありました。スピーカーの話の内容に対する具体的な質問もあり、後日参加者には社会連携課を通じ生徒からの感想文が届けられましたので、一部を紹介します。

「全然頑固でなくて、今まで生きてきた中で色々なことを体験してきて、様々な考え方などがあり、みんな多趣味で定年後の人生も楽しんでいて明るく見えた。年取るのがこわかったけれどすこしこわくなくなった。」

参加者にとっても貴重な体験でした。



熱心に話を聞く生徒たち

夏の子ども会・サイエンス講座

今年のサイエンス講座は、みなと図書館において8月18日（土）午前30名、午後30名の子どもたちの参加で行われ、7名の会員が5つのコーナーをもち約30分の説明や実験を行いました。

各ブース5～7名で学び、時間が来たら次のブースへ移動して3つの講座を体験することができました。順番は事前に指定されていたため、本人の希望とは異なることもありましたが、それぞれ皆イキイキと学んでいました。活発すぎる子もいて、講師の方からは「学校の先生は大変だなあ」という声も上がるほどでした。

出来上がった人工イクラをビニール袋に入れて眺めながらニッコリしていた女の子、プログラムの経験があつてサクサクとこなしていた男の子、リニアモーターカーの速度が表示されビックリしていた子、作った星座盤を大事そうに抱えていた子、終わったばかりの音と光の関係を一緒に来ていたお母さんに一生懸命説明していた男の子、みんなイキイキとしていました。



熱心に勉強した元気な子どもたち

今回は3回目ということですが、一番多くの子どもたちの参加がありました。これは、みなと図書館の人たちの子どもたちへの声かけがうまくいったからだと思います。感謝するとともに、講師の方たちもまた来年もという気持ちが強く湧き上がってきたようでした。（古橋・記）

みなと区民まつり

心配されたお天気も前日までに回復し、当日は暑いぐらいの晴天に恵まれ、10月6日（土）に港区芝公園一帯で開催された「みなと区民まつり」に、CCクラブも参加致しました（あいにく7日は台風の影響による強風が予想されたため安全を考慮して中止となりました）。

CCクラブには、都立芝公園エリア入り口のテントが割り当てられ、企画部主体のカフェのサービスと共に、芝CCクラブからはアロマハンドマッサージが行われ、多くの方に体験して頂きました。入場者数70名（8割が女性）のうち6割が区民の方で、年齢層も20代～80代と幅広いものでした。初めて参加された方もいましたが、昨年に引き続きこれを楽しみに来られた方もいて、施術したメンバーにとっても嬉しいことでした。



テントの前でハンドケアの順番を待つ皆さん

施術メンバーは芝CCクラブの方を中心に12名の方がローテーションを組んで行いましたが、CCクラブの方が8名でCCクラブ以外の4名の方のご協力を得ました。地域に根差した活動の一つであることが分かりました。

区民が笑顔になるふれあいの場として多くの団体が参加するみなと区民まつりにおいて、CCクラブのメンバーはその他の会場でも色々な形で参加しており、地域の交流に協力することができました。（今井・記）

第3回港区地域福祉フォーラム

10月20日（土）、21日（日）に高輪区民センターで開催された第3回港区地域福祉フォーラムに、CCクラブから運営協力として前日準備も含め3

日間で約40名が参加しました。今年はスタンプラリーとフロア案内が主な役割でした。

地域CCクラブからは芝CCクラブが参加し、1階の縁日コーナーで「おりがみつり」を行いました。このコーナーには2日間で親子合わせ450名の方々が釣りや折り紙を楽しみました。芝CCクラブは2日間で延べ17名が対応し、釣りに使ったパンダ、カエル、玉手箱などの折り紙を900個以上作りました。



多くの親子で賑わった「おりがみつり」コーナー

また、3年連続の2階のカフェコーナーでは、今年も高輪地区CCクラブ、3Aクラブそして芝浦二丁目サロンの共同運営でした。2日間のコーヒーの提供数は約600杯でサポーターの方は延べ48名でした。カフェコーナー周囲でCCクラブや会員の活動紹介のパネル展示も行いました。



休憩と情報交換に利用されたカフェコーナー

会場の各コーナーでCCクラブ会員の姿が見られ、会員の活動も多く紹介されて、地域に根付いた活動を見ることが出来ました。（太田・記）

■運営委員会報告

運営委員会報告

秋の地域イベントがあちらこちらで開催されましたが、会員の皆様が元気に参加・活動されていることが伝わってきて大変心強く思います。CCクラブでは例年に倣い「みなと区民まつり」、「夏の子ども会・サイエンス講座」と「地域福祉フォーラム」に参加しました。近年、皆様の活動が地域コミュニティの推進に欠かせないほど地域に根付いてきており、その分期待も大きくなってきております。そのような折、CCクラブ活動の方向性を主テーマとして、9月度運営委員会でグループ会議が行われました。各委員は希望するテーマ・グループに分かれて全員が発言し思いを伝えました。最後に各テーブルから代表の方が結果をまとめるプレゼンテーションで終了しました。1時間程の短い時間でしたが、普段なかなか発言できなかった方も参加して良かったとの声がありました。11月に2回目を実施する予定です。各運営委員の貴重なご意見はできる限り来年度の活動計画に反映したいと考えております。(代表 斎藤 正精)

地域連携部会報告

6月に会員の皆さまあてに送付した活動実態調査書の回収が9月末で終了し、結果、送付対象者数592名に対し336名の方々から回答があり、うち報告された総活動件数は488件にのぼりました。回収にあたっては各運営委員はじめ会員の皆さまに多大なご協力を頂き誠にありがとうございました。

皆さまからの貴重な情報を報告書にまとめ、地域で幅広く活動する実態を多くの皆さまに知って頂き、併せてこれからのCCクラブの活動方針に生かしていくことで地域と一体となった地域貢献活動に繋げていけるよう取り組んでまいります。

(部会長 吉田 由紀子)

■活動計画

2018年度CCクラブ「活動報告会と邦楽演奏会」(詳細時刻は別途案内で確認してください)

2019年3月16日(土) 明治学院大学白金キャンパス 3号館 3201教室 (12時30分開場)

第一部	活動報告会	13:00~14:30
第二部	三味線演奏と日本舞踊	15:00~16:30
第三部	交流会	17:00~18:30

CC通信40号にて会員活動紹介「サロン活動」を掲載する予定です。活動を紹介したい方は会報部会までご連絡ください。 連絡先 会報部会(太田) noriohta@cscpt.jp

編集後記

CC通信39号では5月の明治学院高等学校家庭科授業のゲストスピーカー活動から10月の地域福祉フォーラムまでを掲載しました。各行事に運営委員を始め多くの会員が参加し、運営協力をしています。社協の地域福祉フォーラムではカフェコーナーでCCクラブ会員の活動紹介をしましたが、社協の地域活動紹介コーナーでも会員のボランティア活動が多く紹介されました。また、今年は多くの会員やグループが社協から表彰されました。(7期 太田 則義)



チャレンジコミュニティ通信 vol.39 2018年12月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel.03-5421-1555 Fax.03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

表紙写真協力/平尾恭一様(9期)

会報部会	
部会長	瀬能 正実(10期)
副部会長	太田 則義(7期)
部員	古橋 義弘(1期)
部員	忍足 恵一(6期)
部員	榎本 和夫(7期)
部員	山田 紀子(8期)
部員	今井 美智(10期)
部員	佐藤 芳男(11期)
部員	鈴木 興雄(11期)
部員	中満 美紀(11期)